
.hack//G.U & ULTRASEVEN X

斎藤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

hack / G・U & ULTRASEVEN X

【Nコード】

N3710K

【作者名】

斎藤

【あらすじ】

世界最大のネットゲーム『THE WORLD』その中では人にしられる事は無い戦いが繰り広げられていた。

全く持ってありえない妄想100%の話ですがよろしければお付き合ってください。

（前書き）

急に思い立ち即興で書き上げました、拙いとは思いますがよろしく
お願いします。

目覚ましの音が聞こえる、いや目覚ましではなくケータイの着信だ、私は跳ね起きケータイを手に取り開く、画面には『火野』とあり私はため息をつく、仕方なしに電話に出ると向こう側から気取った声が聞こえてきた、

「私だ、少々問題が発生した、至急『知識の蛇』にきたまえ」

それだけ言っただけで火野は電話を切る、ケータイの時計を見るとAM3:13と表示されていた、ラムネ菓子を2、3粒口に入れパソコンを立ち上げ『THE WORLD』にログインする。

『THE WORLD』ー全世界で1200万人がプレイしている世界最大のMMORPGだ、私達プレイヤーはもう一人の自分をロールし人と触れ合いコミュニティを形成する、そんなゲームだ。その中で今の私はゲームの管理者側でプレイしている(まあバイトみたいな物だが)そのために私は非常識な時間に呼び出されて上司の元へと向かっているのだ。

知識の蛇についた私を待っていたのはインドの民族衣装のような服を纏った筋肉質な坊主だった、彼が私の上司である火野 拓海が操るPC『八咫』だ、

私を確認するなり八咫が口を開く、

「来たか、早速だが『△そそり立つ 哀愁の 時計台』にAID Aが見つかった、即刻調査に向かい見つけ次第削除せよ」

私の意思何か関係無しといった八咫の言い草に私はもう一度ため息をつき現場へと向かった。『△そそり立つ 哀愁の時計台』につき私は探索を始める、30分程たった頃視線の先に黒い泡を確認した。

黒い泡、あれこそが私が深夜に叩き起こされる原因になったAIDAだ、あの黒い泡はいまだ正体は解っていない、解っているのはAIDAにやられたプレイヤーは何らかの意識障害を受けるという事、対抗するためには特殊な力が必要であるという事だけだ、そして私にはその特殊な力がある、私の同僚の『パイ』や『クーン』が使う力『碑文』とはまた違う力が。

AIDAが私に気付いたのか形をピンク色の微生物のような姿に変える、それを見て私は懷に手を伸ばす、その瞬間私とPCの境界は無くなりシンクロする、私は懷からゴーグルのような物を取り出しそれを目に押し付ける、その瞬間私は赤い光に包まれた、光が止んだ時私は赤と銀の騎士のような戦士『ULTRASEVEN X』に姿を変え直立していた。

AIDAは私に向かってレーザーのような光を放ってくる、私はそれを弾き頭上のカッター『アイスラッカー』へと手を伸ばし投げる、アイスラッカーはAIDAに当たり吹き飛ばし私は追撃の為に額にあるビームランプへと手を沿える、がAIDAは逃げに入った、追うために私は全身に力を入れ飛翔する、再び額のビームランプへ手を沿え逃げるAIDAに向かって『エメリウム光線』を発射、AIDAは消滅し私の任務は終了した。

多少疲労し知識の蛇へ戻った私を待っていたのは八咫の思わぬ一言だった、

「夜分に済まなかった、だが君のおかげでAIDAの手早い削除が出来た……………礼を言う」

私は一瞬驚いたがすぐに笑みを浮かべ言い返す、

「礼なんかいりません、私に出来るのはこんな事だけですし、私もこの『世界』を守りたいだけですから」

八咫と私はしばらく他愛もない話をしログアウトする事にした、

「じゃあ、おやすみなさい八咫、いい夢を」
私の挨拶に八咫も返す、

「君もな、おやすみ」

私達はログアウトしかなり遅い眠りについた。

（後書き）

お読み頂き有難うございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3710k/>

.hack//G.U & ULTRASEVEN X

2010年10月20日19時06分発行